

女性技術者ネットワーク開催報告

(JAXA 筑波宇宙センター見学会)

化学工学会男女共同参画委員会では女性会員相互の情報交換の場を提供する「女性技術者ネットワーク」を開催しています。女性研究者・技術者が少ない化学工学分野では、女性は会員同士の情報交換の場に参加しにくく、男性間では当たり前のように交換される情報をなかなかキャッチできない、また、せっかく学会に参加しても知り合いが少なく、ざっくばらんな情報交換や仕事の悩みや愚痴を言い合える仲間もなかなか見つからない、といったことがあります。そこで、この会では、地道に知り合いを増やしつつ、お互いの貴重な経験や悩みを共有することで、お互いに前に進んでいければとの思いで、先輩女性のライフ・ワーク・バランスや研究に関する貴重な経験などに関する講演とともに、参加者のお互いの情報交換を行っています。通常は女性限定の会ですが、今回は JAXA 見学会を兼ねた特別企画として男性の参加も受け入れて、少し拡張した女性技術者の連携強化の場としました。

1. 参加者

今年度初めての会を、7月11日（金曜日）に JAXA 筑波宇宙センターにて開催致しました。当該センターの見学後、JAXA 男女共同参画推進室のご協力を得て、講演会、交流会を開催しました。親子で、またはご夫婦で参加された方もあり、女性14名（内小学生1名、高校生2名）、男性8名の計22名の幅広い世代の宇宙好きが集まりました。

2. 見学会

見学会では、国際宇宙ステーションの「きぼう」日本実験棟の管理をしている管制センターを窓越しに見学しました。管制センターに到着した際には宇宙ステーションが夜側にあってモニター画面は真っ暗でしたが、見学終了間際にぼんやりとした小さな光がモニターに現れ、あっという間に輪郭が明確になり、「きぼう」が太陽光を浴びて輝いてゆく様を見ることができました。宇宙ステーションが夜側から昼側へ出た瞬間でした。限られた見学時間ではめったに遭遇できない幸運だそうで、参加者一同、感激しました。

3. 講演会

講演会は、当学会からは㈱ファンクショナル・フルイッド社長の藤岡恵子氏（当学会男女共同参画現委員長）と東北大学 北川尚美准教授（当学会男女共同参画前委員長）、JAXA からは主任開発員の永松愛子氏を講師に迎え、ご講演していただきました。

藤岡恵子氏ご講演

藤岡恵子委員長のご講演では、化学工学会の紹介に加え、当学会での女性比率について、学生会員は比較的の高いのだけれど、正会員では依然低い現況を報告され、さらに日本企業の女性幹部職は依然少なく、その理由として企業がいままで女性幹部を育ててこなかったこと、女性からの指摘では家庭と仕事との両立が難しいことが挙げられているなどを紹介されました。また、当学会における男女共同参画委員会の活動として、学生への企業紹介である学生のためのキャリアデザインセミナー開催、当委員会の各種活動を学会誌、及びホームページにて紹介する情報発信活動、若手女性研究者に大人の女性研究者の活動を紹介し、将来の自己イメージ形成に役立てていただくための女性講演者のみで構成される部会横断的なシンポジウム活動、本日の見学会に代表される女性技術者ネットワーク活動、の4点を詳しく紹介していただき、最後に、今回の見学会では幅広い世代と職種の人が参加され、

ダイバーシティの面からは有意義な会となったとお話しして頂きました。



図一 講演中の藤岡恵子委員長

北川尚美氏ご講演

北川尚美先生のご講演では、東北大学における男女共同参画の取組みの紹介として、2001、2002年から女性教員が業務を行うに際してのハードルを下げる事業の紹介、2009年から昨年までのさらにステップアップを行う事業の紹介を行っていただきました。ハードルを下げる事業は、女子大学院生が母校の高校などに行き、理系女子の活動を紹介し、科学に関心を持つ中高校生を育てるサイエンス・エンジェルの制度、病後児保育制度、ベビーシッターを使用した場合の費用補助制度などであり、特に病後児保育は、多くの方が利用されていることを紹介していただきました。ステップアップを行う事業は、世界のトップクラスの研究者を育てることを目的とし、研究者支援のための事業、例えば、研究支援員の提供などを行っているとのことでした。また、学内保育園は、去年は5名までですが、学外からの一時保育を受け入れており、学会などでの活用が可能となっていること、工学部では独自の女性研究者のネットワークを形成していることなど、以上のような大学での取組みの成果で、女性教員の数は当初より50%近く増加したとのことでした。

さらに、いかに才能があっても、教育の機会、研究の機会が少なければ、その才能を伸ばしていくことはできないので、女性の指導的立場の方が日本で少ないのは、女性が劣っていることが理由ではないこと。自分は男女共同参画の試みに関して、常に女性のわがままにならないか、留意していること。例として、若い研究者が自分は研究を十分にしたいので、保育サービスを深夜までしてほしいと希望することは、違っていると思う。子供にとって何が大切かを含め、自分のできること、できないことを判断して、他人の力を借りることも必要。全てを完璧にやろうとすると、根気が続かなくなってしまう。肩の力を抜くことも必要との女性研究者へのアドバイスをいただきました。

永松愛子氏ご講演

永松愛子氏によるご講演では、JAXAの組織自体及び宇宙放射線に関連する研究をされている自己の紹介、女性幹部職員の少ないJAXAの現況、さらにJAXAにおける女性職員のための各種制度をご紹介していただきました。現在はJAXAでは女性職員のための各種制度が完備されているが、男性の育児休暇取得が少ないなど、運用面でまだ問題があるようです。永松様ご自身は、国際宇宙ステーションでの「きぼう」日本実験棟における宇宙実験に関するご担当をされているとのこと。お仕事と家庭、育児の両立に関して、自分も納得できて、子供や夫が幸せになれる選択を行い、常に手を抜かない努力をしているとのこと。自分でなければできない仕事は優先するけれど、省力化できるものは家事を含め徹底的に省力化しているとのこと。時には研究者、学生、妻、母として、4足のわらじをはきつつ、お仕事と家庭、育児の両立に関して努力されてきたことをご報告していただきました。

4. 交流会

その後の交流会では、講師と参加者及び JAXA 男女共同参画推進室の方々とで賑やかな情報交換が行われました。特に高校生を含む学生の皆様は、どのようにすれば JAXA に勤務できるのかを熱心に質問されていました。宇宙好きという同好の集まりであったせいか、世代差や専門分野を超えて活発な会話が弾みました。今回の企画では、分野が異なる女性研究者間においても交流のチャンネルをもつ機会となり、新しいお仲間とお知り合いになることができたのではないかと考えます。



図一 2 交流会風景（右端：永松愛子講師）



図一 3 ロケットを背景に記念撮影